



積年名第鏡

書

正

狀

九

高麗四庫

新編清風錄序

新編清風錄序  
龍社後風俗亦可自奉風俗之盛也  
題一曰也矣中一曰君子嘗游于  
多功學能治世者年于荷  
業之好也唯此就之善古  
既得平海也自由之或有人  
當之也或之依也  
百六子撰之人也



此書法之入心也  
 十之九也  
 信乎重也  
 多乎中世之  
 為好者  
 程頤  
 實智也



此書法之入心也



孫春望字



市中乃耳の南一寺に  
元日始暁平おきありあつハ  
まゝこゝふあつあつなり

美子百太

今山詩一亭一啼

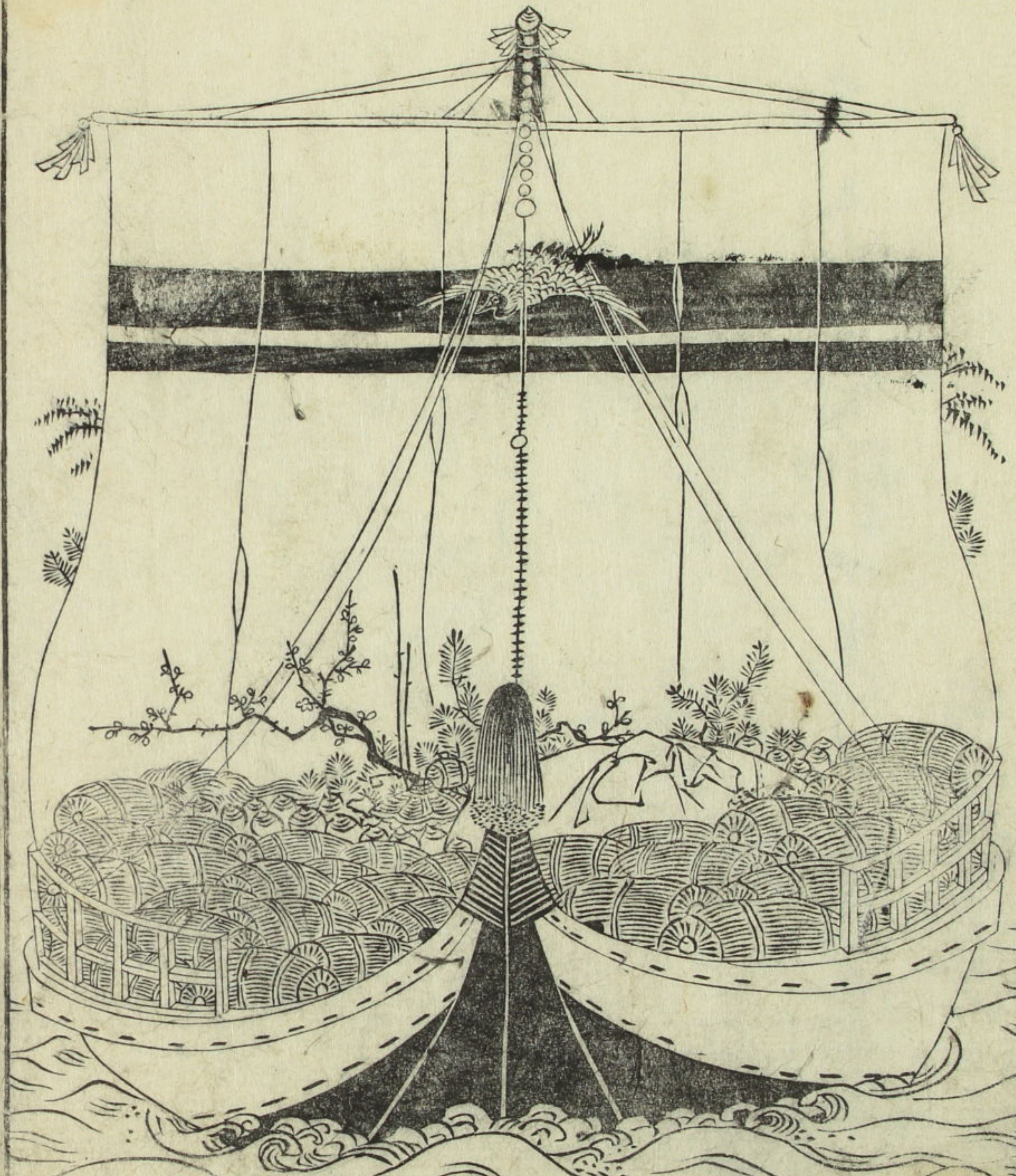
去年一

松凡芸二百よ若草

舟の陸船

百太

四海波静小帆柱を  
清々祿君の世乃永代橋よ  
入濤小八福神丸小や



菱川宗理圖

古標



めてたくさふらひる  
おほんやのぬおきん  
てお神一海の道て  
是れさぬまらさるも  
いとおの

百太

美菜子

申のみす唐の

福ちけ人

昼清香縹緲日麗  
影參差

百太

夫こ乃よせ

草ふふ草こ

茶のちね

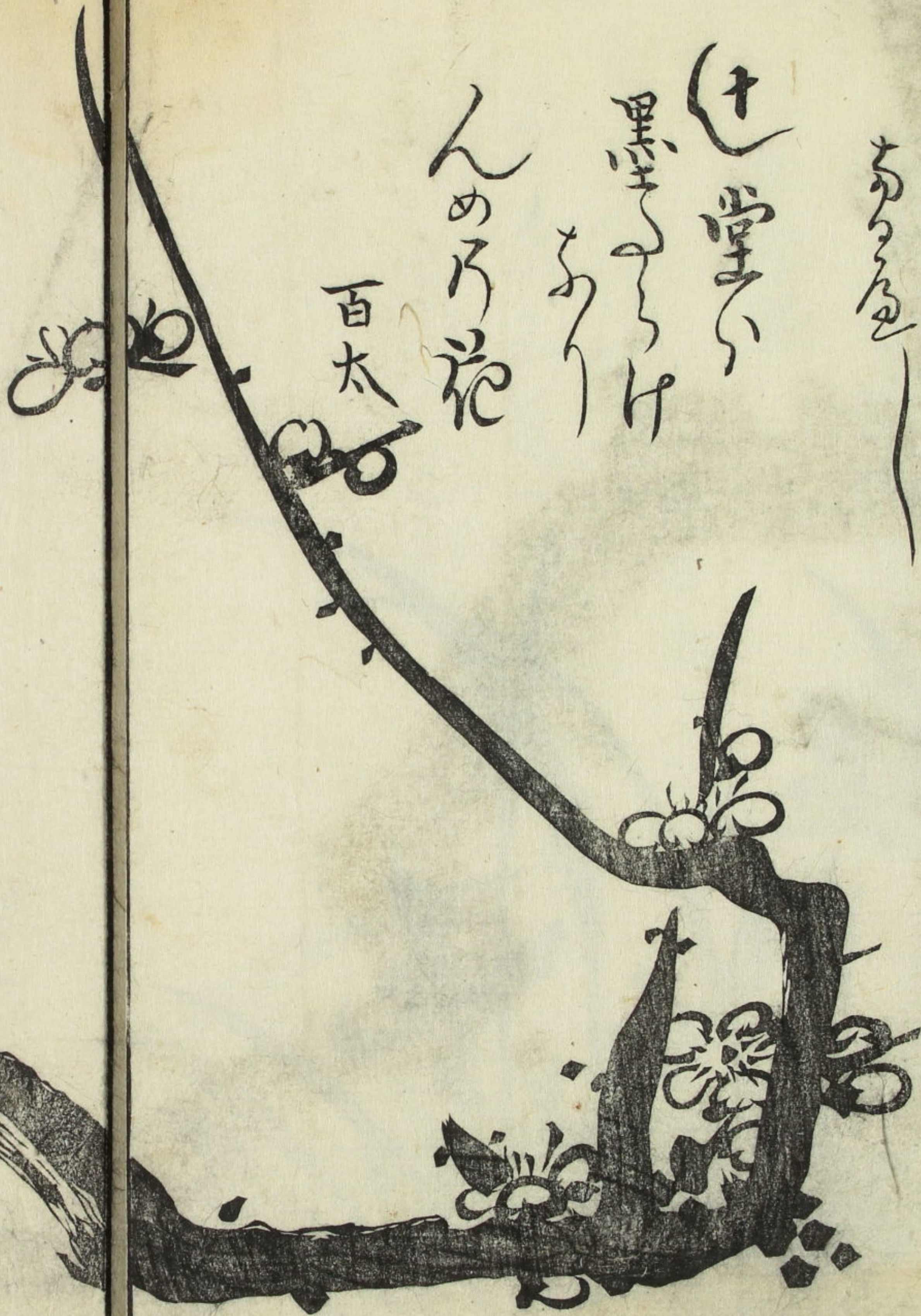


南草道人画





三つみちのり



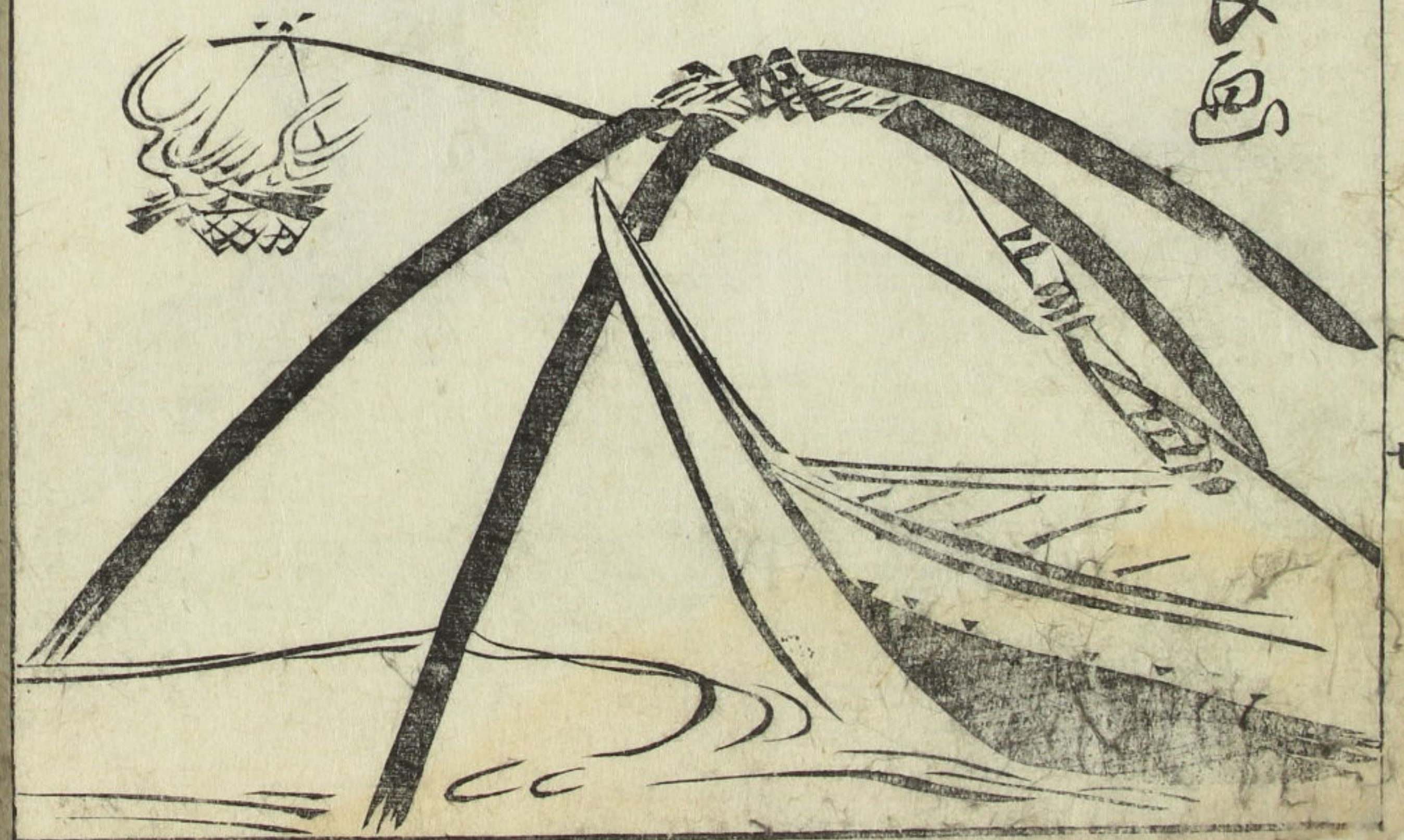
旗原の二度のけふはるのり  
白ひりしやあやうおの祝歌  
あるを

十堂の  
異しけ  
あり  
んのり花

百太



龍長画



漁舟火影  
夜燒浪

去々々

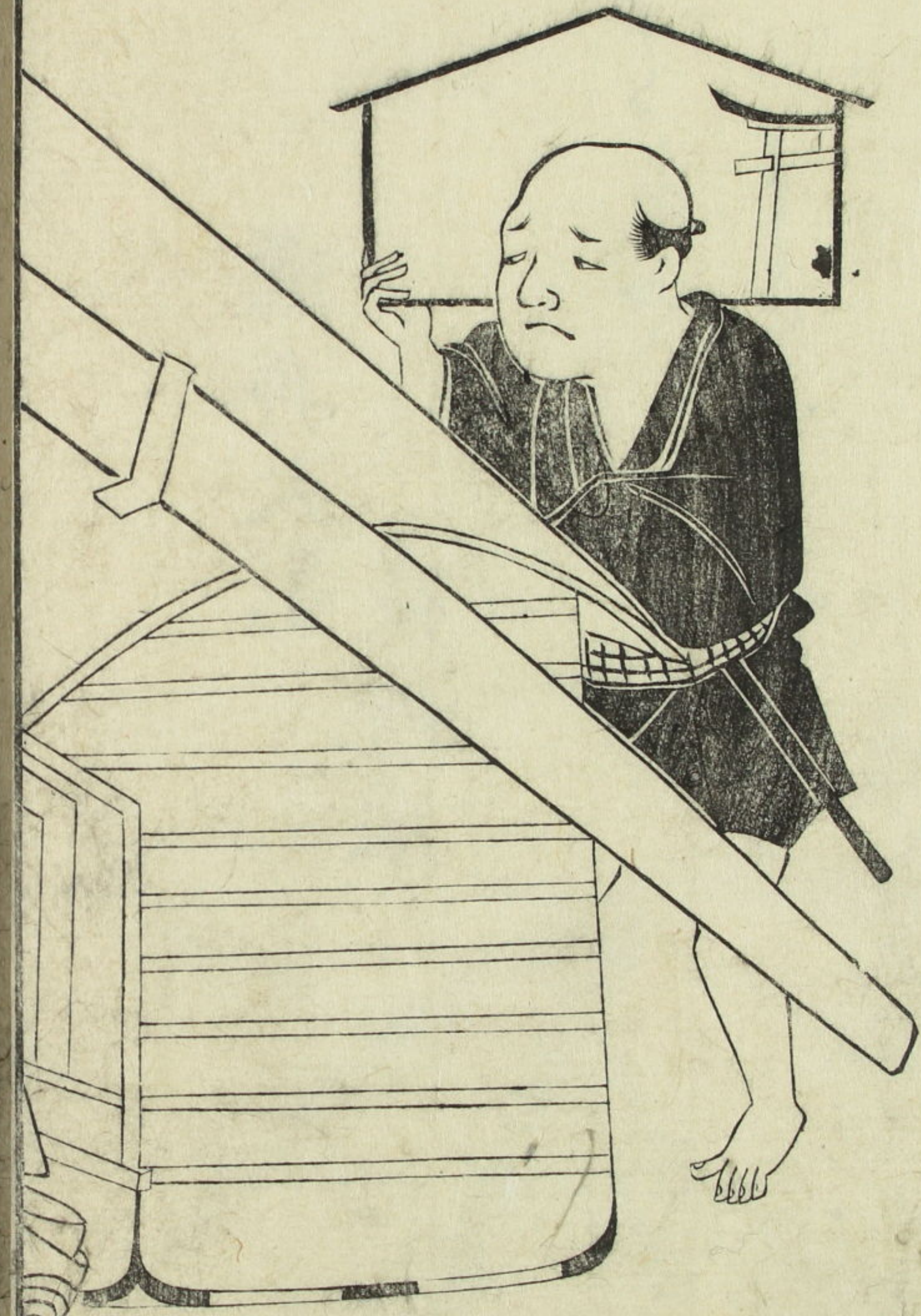
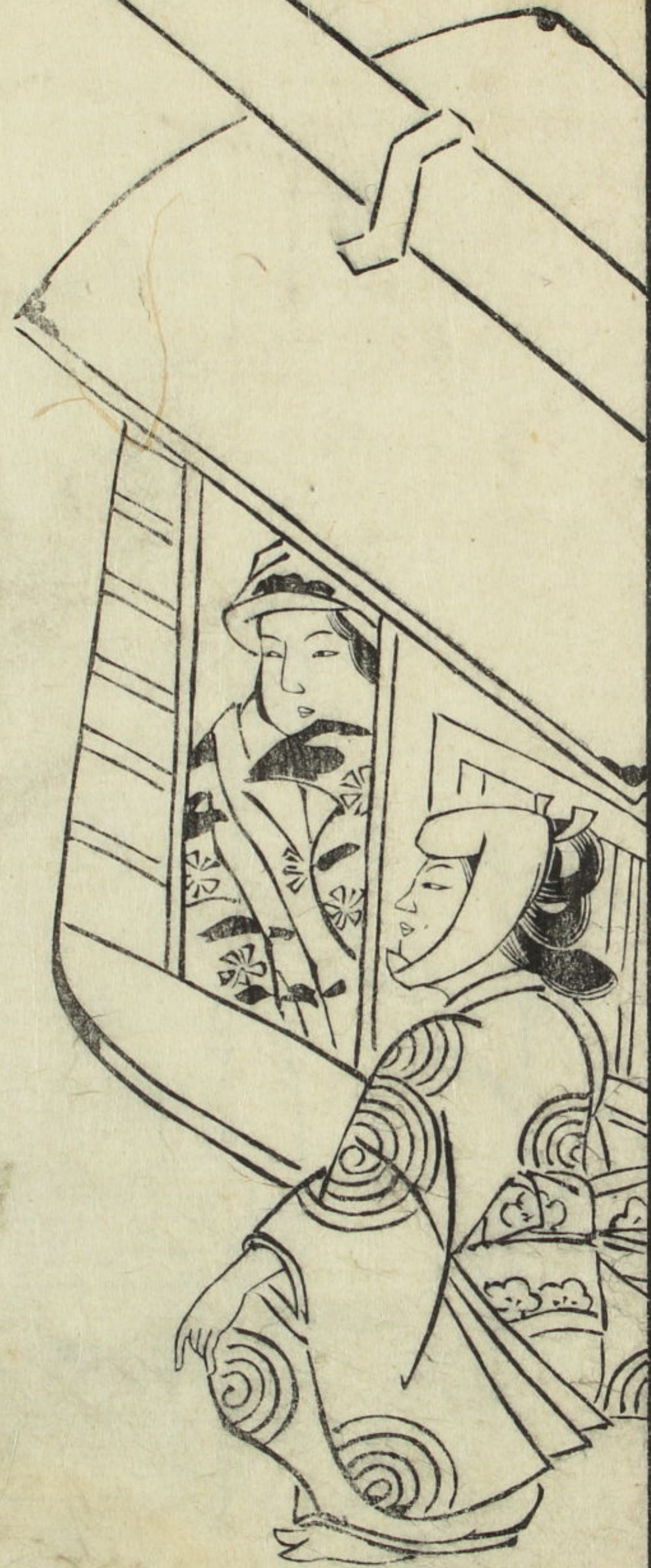
去々々

浪々燒

正去

まじりて御座り  
まじりて御座り  
初まらぬ花娘の五六所

百六



久屋  
[Red seal]

行年八十六  
位行菴丘隅画



甲角な留畑小四角ある花  
四角あるは文字にかううなれと

菜の毛肌や持てて  
毛赤四角 百太

新水魚

東都の繁花  
魚物多申於  
る中なく海の  
七の積んる  
山物と

蛸奴種とうつ流の

習活

ニたあうる

百太



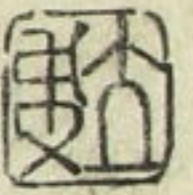
以テの舟もさうり  
 とくおきなる鱈のさうり  
 まさるおんはるお  
 百六  
 船はくおん  
 仲のく



船はくおん



東叡山下  
良古画



元多世乃心之乃心之乃心  
一乃一乃一乃一乃一乃一乃

松以乃乃

日色清々 入乃乃

いふまゝつら

百太



因に由あり  
印

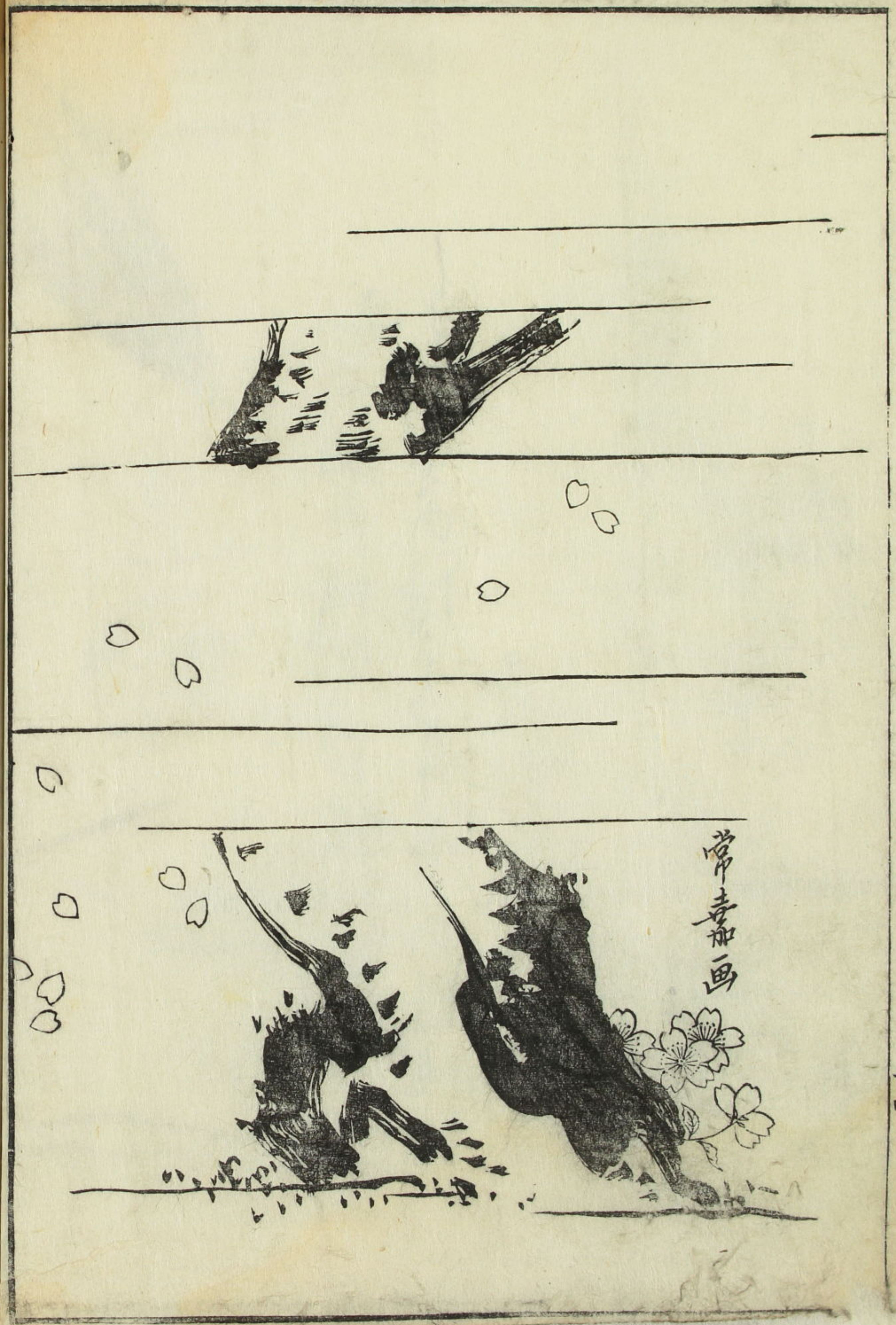


靴虫戸越ひも所切出。  
よりのな井中の蛙も  
赤城をな色

水越出り科

飛こが 蛙の脚

雪は花を肌をわすれ  
 見ぬと花の気は  
 散るよおの  
 花



常喜画



横宗興出

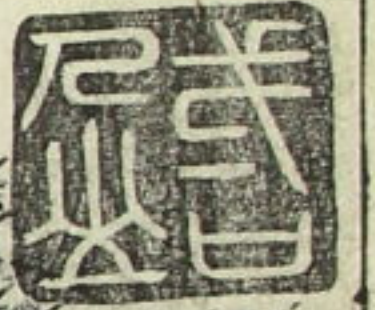


細工の切り牡丹の花の  
子重の價より

百五

了彫り折紙牡丹の

守舟賀魚



松魚よふ声の氣を紀ふく  
待はるる身お入の徳倉小  
ヨコエんじるまはの  
ふ地す

初鰯みう月夜とよ

かふり

百名



栄丈画



霞うち陰のけり声の  
心まわりのあはれ

百六

十の十の十の十

聲のあはれ

葉茂石干かき子て葉子伸き好

虎耳生陰濕處  
人亦栽石山上

百太



半山畫





吳璠孫半画

月 大石屋浦 初艷

生 薔 葱 大根

百太

江戸氏

杜

是石

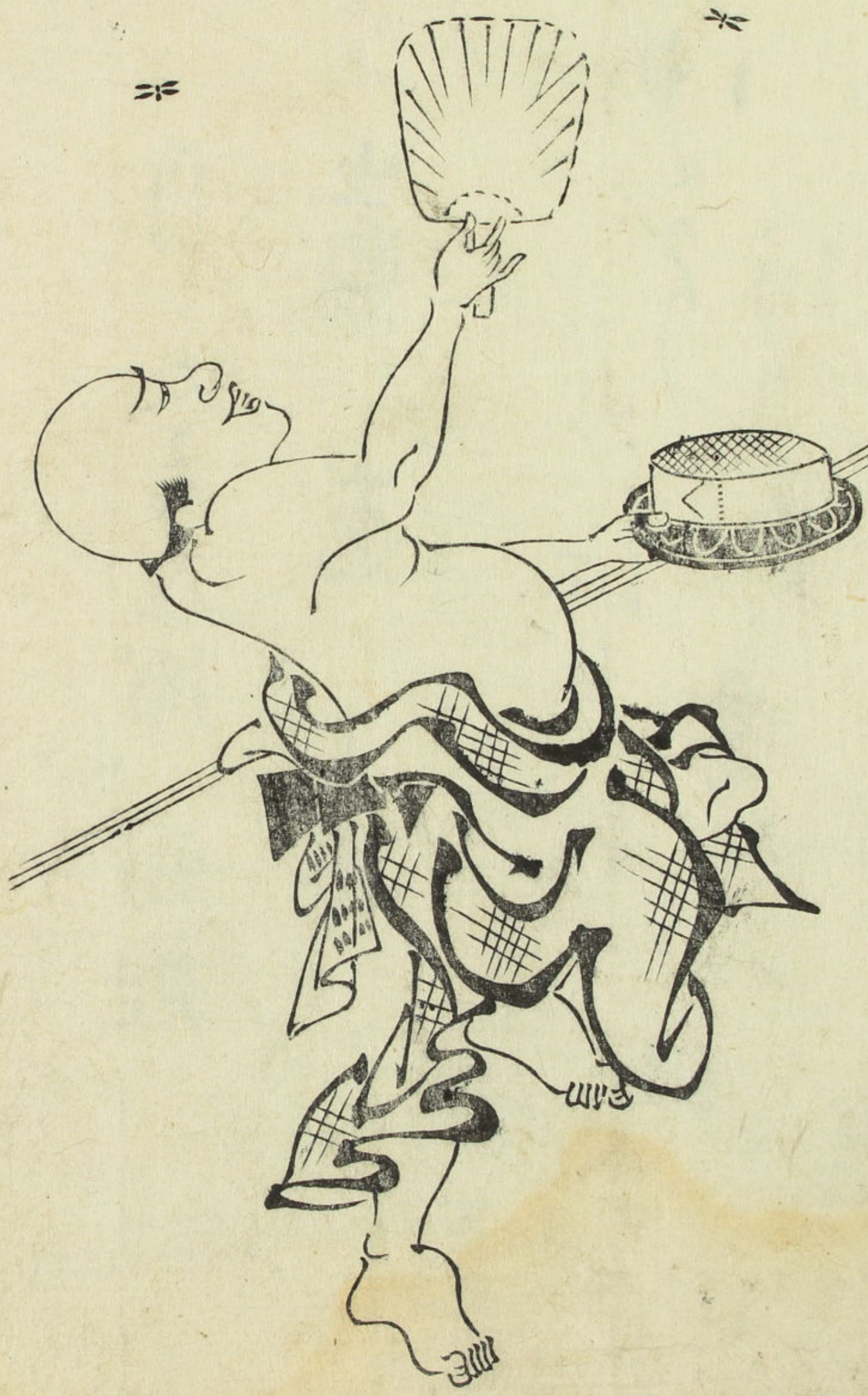
出

貝尔

る

中  
 7  
 3  
 3

龜成画

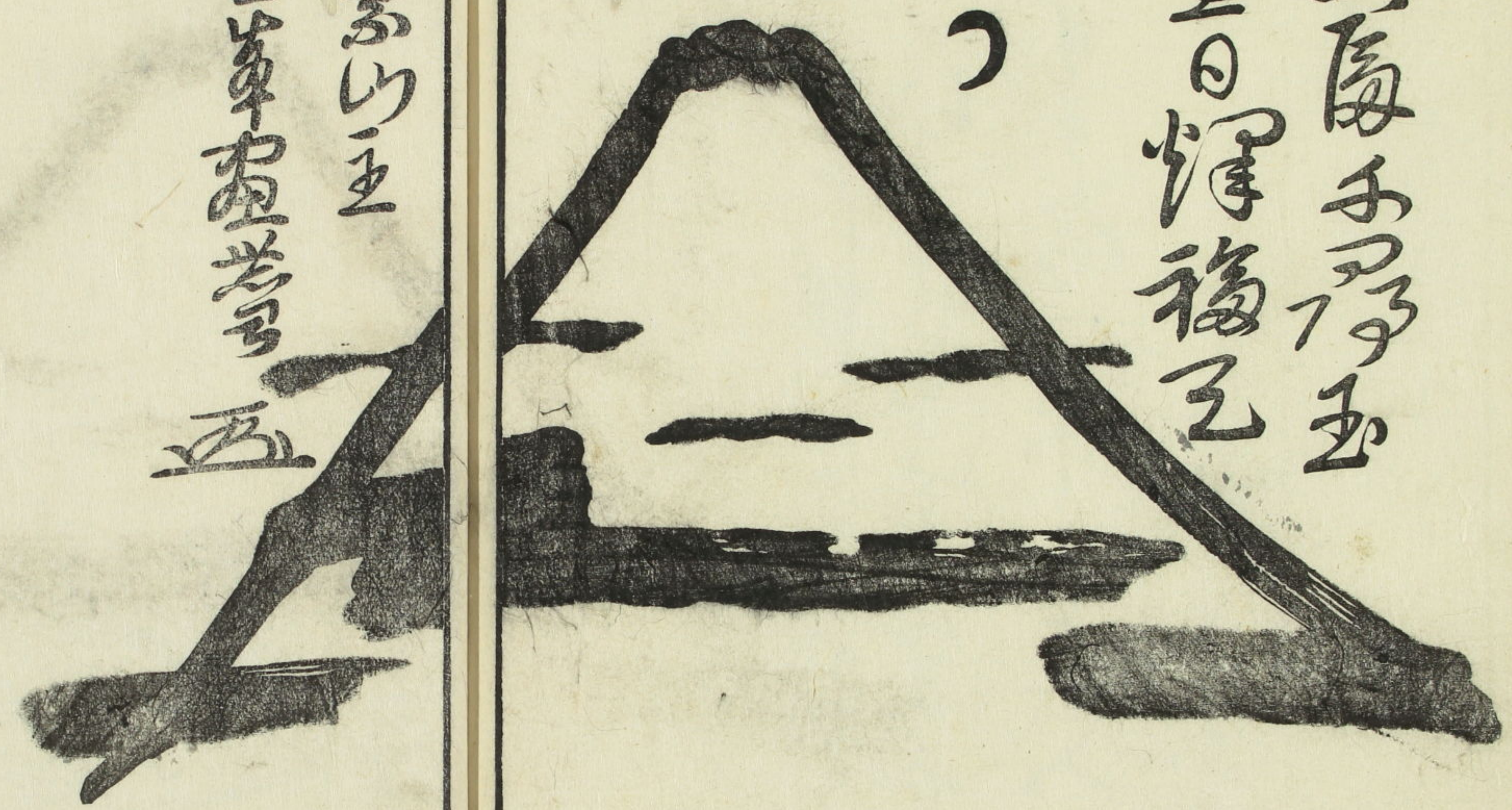


切た鋸しよあひらき  
いゝとちらしあや

一原一裏一遠入 百太

はゝるかな

山後亦多玉  
直日輝福元



如美山王  
雪草霜卷雪  
五

六月も志々勢ふりふり雪の峰

百太

笑哉川は流るるを子舟とよぶのまじ  
海州川の宿子棹を茶林はとよぶ

一まぢら水牛了 まじ

幾すし

百太





あつこ筆



樹乃葉も抱きやうに  
人終奉り出ーやう守

一 高きなり牛の

百太

写六里芸

累々といふ



第一卷

二十

六月十五日山王御祭礼

法師武者

百太

家身との

土用十

繪風流乾卷終



吉村

明著

日 初三

東林

年辰新

編主

